

## 会議研修報告用紙

事業所 えひめ保健企画 部署 松山ハロー薬局  
氏名 橋本

会議・研修名	第40回 日本薬剤師会学術大会		
期間	2007年10月7日～10月8日	場所	ポートピアホテル・神戸国際会議場・展示場
1) 会議・研修の目的と概要			
メインテーマは「薬剤師ルネサンス」-豊かな人間力の創造- 主催：日本薬剤師会・兵庫県薬剤師会			
概要：10/7（日）開会式・特別記念講演・特別講演・テーマ別分科会（講演・シンポジウム）、一般講演（口頭発表）、一般演題（ポスター発表）、懇親会			
：10/8（月）テーマ別分科会（講演・シンポジウム）、市民公開講座、薬学生によるサテライトシンポジウム、展示会：薬科機器、OA機器、製薬企業、その他展示、書籍展示、物産展等			
目的：急速な少子高齢化の進展とともに疾病構造も変化する等、社会全体に多くの課題を抱える中、薬剤師は、安全で有効な医薬品の安定した供給をはじめ、地域医療の担い手として、医薬品の適正使用の推進、患者の立場にたった服薬指導など、専門性を生かした活躍がますます期待されている。この学術大会を通し日頃の成果の発表や、各分科会で様々なテーマについて意見交換、討議を行うなど、薬剤師としてさらなる資質の向上を図ることを目指していく。			
2) 会議・研修の様子と感想			
講演「高齢社会と医療」、分科会「医療制度改革と薬剤師」：少子高齢化が進みつつある中で、高齢者の健康と生活をどう守っていくかが大きな課題となっている。今回は職場でも学んだ後期高齢者医療制度についてさらに詳しく学ぶことができた。後期高齢者医療における薬剤師の役割としては、様々な薬物療法上の問題点を十分に踏まえ、個別の患者情報を基礎とした服薬支援を通じて、高齢者のQOL向上に寄与していかなければならないと感じた。			
ランチョンセミナー：薬剤師は医薬品の製剤的特徴を十分に把握して患者様に情報提供をする必要がある。口腔内崩壊錠の臨床での意義や注意点、服用感が悪い製剤への対処法、苦味軽減の具体的手法について学んだ。さらにマクロライド系DSの先発・後発品について、含量均一性試験や水への分散性などの検討を行い多面的に製剤の品質について評価した事例を学んだ。薬剤師が製剤を積極的に評価して情報を発信することは服薬指導にも大いに役立っていくと感じた。：			
ポスター：『長期算定のアプローチ』①患者向けポスターの掲示②長期投薬情報提供という名前は難しいので親しみやすい「QQサポート」という愛称に決めた③パンフレットと手紙をダイレクトメールの様に郵送し次回来局時にお話する。など薬局独自のアプローチにより算定率アップに繋がっている現状を知り、積極的なアプローチ法を薬局でも取り組んでいきたいと思った。『お薬手帳の有効活用』：①患者様にアンケートをし、患者様の欲する情報を調査し、これを元にミニ情報紙を作成しお薬手帳にて情報提供する。②お薬手帳交付時にDrへの提示の重要性を指導していく。③血圧等の検査値の記入について薬剤師が積極的に行う。など、お薬手帳にシールを貼るだけでなく、より付加価値のあるお薬手帳にしていく努力をしていく必要があると感じた。			

会議・研修ご苦労さまでした。この報告用紙は、会議・研修終了後一週間以内に必ず 管理部まで提出してください。

事務長	管理薬剤師	代表取締役